

地域再生計画

1 地域再生計画の名称

第2期中富良野町まち・ひと・しごと創生推進計画

2 地域再生計画の作成主体の名称

北海道中富良野町

3 地域再生計画の区域

北海道中富良野町の全域

4 地域再生計画の目標

本町の人口は、1955年の11,105人をピークに減少傾向にあり5,069人（2015年国勢調査結果）まで落ち込んでいる。住民基本台帳によると2021年には4,843人となっている。

国立社会保障・人口問題研究所の推計によると、2045年時点では2,749人となる見込みである。

本町の自然動態については、一貫して自然減が続いており、2019年には出生数29人、死亡数65人で36人の自然減となっている。なお、合計特殊出生率の推移をみると、1988年（昭和63年）～1992年（平成4年）では1.71であった合計特殊出生率が、バブル期にあたる1993年（平成5年）～1997年（平成9年）の1.87を経て徐々に低下し、2013年（平成25年）～2017年（平成29年）では1.46となっている。

社会動態については、概ね転出超過（社会減）が続いており、2019年には転入数141人、転出数181人で40人の社会減となっている。

男女別・年齢階級別の人口移動の状況をみると、男性では20代、30代で転入、転出ともに多くなっており、就職や転職等を機に人口移動があるものと考えられる。一方、女性では10代、20代、50代、60代で転出超過となっているが、30代、40代では転入が多くなっており、今後、子育て世代の住みやすいまちづくりが、人口増加につながる重要課題といえる。

本町の生産年齢人口（15～64歳）は一貫して減少傾向で、1955年には6,487人であったが2015年には2,703人になっており、今後もさらに減少していくことが見込まれる。年少人口も同様に減少傾向で、1955年には4,152人であったが2015年には648人になっている。一方、老年人口は、1955年の466人から2015年には1,672人に増加しており、2045年には本町全体に占める割合では50%を越える推計である。

基幹産業である農業、観光をはじめ、各業種において後継者や人材不足が懸念されており、就労場所がないことによる町外への人口流出を防ぐためにも、就業者が働き続けられる環境を整えていくことが重要と考える。

また、人口減少と少子高齢化の進行に伴う家族機能の脆弱化、地域住民のつながりの希薄化等、共同体としての機能が低下することも懸念されており、医療・介護等の社会保障に関連した費用を抑える観点からも、高齢者の就労促進による健康寿命の延伸を図るとともに、本町の魅力ある産業の維持、向上に向けた後継者等の確保、育成に取り組む必要がある。

そこで、本計画では、以下の4つの基本目標を掲げ、安定した財政運営の確保と生活サービスの機能の充実を確保することにより、まちの魅力を向上し、地方創生、人口減少の克服という構造的課題解決を図ることを目指す。

- ・基本目標1 中富良野町の特性を活かした経済基盤の発展
- ・基本目標2 中富良野町への新しい人の流れを生み出す
- ・基本目標3 子育てが、子ども自身が幸せを感じる環境づくり
- ・基本目標4 誰もが住みたくなる魅力あるまちづくり

【数値目標】

5-2の ①に掲げ る事業	K P I	現状値 (計画開始時点)	目標値 (2025年度)	達成に寄与する 地方版総合戦略 の基本目標
ア	平均所得	1,585千円	1,585千円	基本目標1

イ	年間転入者寄与数	141人	150人	基本目標 2
ウ	合計特殊出生率	1.86人	1.92人	基本目標 3
エ	年間転出者寄与数	181人	170人	基本目標 4

5 地域再生を図るために行う事業

5-1 全体の概要

5-2 のとおり。

5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

○ まち・ひと・しごと創生寄附活用事業に関連する寄附を行った法人に対する
特例（内閣府）：【A2007】

① 事業の名称

第2期中富良野町まち・ひと・しごと創生推進事業

ア 中富良野町の特性を活かした経済基盤の発展を図る事業

イ 中富良野町への新しい人の流れを生み出す事業

ウ 子育てが、子ども自身が幸せを感じる環境づくり事業

エ 誰もが住みたくなる魅力あるまちづくり事業

② 事業の内容

ア 中富良野町の特性を活かした経済基盤の発展を図る事業

基幹産業である農業分野において農業後継者の確保、新規参入者の受け入れや農業リーダー育成を実施。また、基本技術の励行、コスト低減を図ることや、多様な担い手が地域の営農を安定的に継続できるよう、最新技術の導入を進め、農作業の省力化等を図る事業

商工業における経営の安定化・活性化に向けて、商工業者の自主的な取り組みに対する支援を行い、後継者・新規参入者の育成、新規事業の創出を促し、商品開発や販売促進等へつなげる事業

多様化する観光ニーズに対応した取り組みを行うことで交流人口及び雇用を創出し、観光情報発信や観光等の拠点整備等を行い、地域活性化を図る事業 等

イ 中富良野町への新しい人の流れを生み出す事業

S N S等を通じて移住・定住の促進にむけた行政情報を積極的に公開し、一人でも多くの移住者・定住者の確保に向けて取り組む事業

地域間交流を通じて人材・産業交流の輪を広げ、地域おこし活動に意欲のある地域外の人材の積極的な受け入れや、新たな人の流れを生み出すテレワーク・ワーケーションを推進する事業

町の魅力の発信と産業の振興を図る、ふるさと納税事業 等

ウ 子育てが、子ども自身が幸せを感じる環境づくり事業

地域における子育て支援サービスの充実を図り、子どもたちの多様な体験活動の機会の提供や、結婚を希望する人々への支援をする事業

安心して子どもを産み、育てることができるよう保険事業を展開し、家事・育児と仕事の両立支援に取り組む事業

子ども達の「いきる力」を育むため、学校のICT関連の環境整備を推進して社会の変化に対応した教育の充実を図り、様々な交流や体験活動を通じて子ども達の育成に資する事業 等

エ 誰もが住みたくなる魅力あるまちづくり事業

生涯にわたる健康づくりを推進するための健康診査やがん検診等の各種健診・検診・事後の保健指導等と健康寿命の延伸を推進する保健事業

局地的な自然災害の増加や災害の大規模化・複雑化に対する、防災組織活動支援や訓練を通じた人材育成、防災・減災体制の強化を図る事業

空き家等の解体や、利活用を促進し、空き家の適切な管理を推進する事業

社会インフラとして地域社会や経済を支える地域公共交通や、町道、橋梁の設備を計画的に整備することで、地域公共交通の維持、確保、利便性の向上を図る事業

地域ぐるみの防犯・交通安全環境の整備を行い、防犯体制の強化や交通安全環境づくりを推進する事業 等

※ なお、詳細は第2期中富良野町地域総合戦略のとおり。

③ 事業の実施状況に関する客観的な指標（重要業績評価指標（K P I））

4の【数値目標】に同じ。

④ 寄附の金額の目安

348,688 千円（2021 年度～2025 年度累計）

⑤ 事業の評価の方法（P D C A サイクル）

毎年度 3 月頃に外部有識者による効果検証を行い、翌年度以降の取り組み方針を決定する。検証後速やかに本町公式 W E B サイト上で公表する。

⑥ 事業実施期間

地域再生計画の認定の日から 2026 年 3 月 31 日まで

6 計画期間

地域再生計画の認定の日から 2026 年 3 月 31 日まで